



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和6年(2024年)
6月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

無知の知

校長 垣内 幸太

1学期の折り返しの時期になりました。1,2年生において民間プールを活用しての水泳授業が始まります。また、3,4年生の校外学習、5,6年生の宿泊行事も控えています。1学期の後半戦、子どもたちとともにじっくり学習に取り組んでまいります。

さて、授業をしていると「わからない」と子どもが言うことがあります。お家で一緒に勉強しているときにも同じ言葉を聞くことがあるかもしれません。この言葉を聞いたとき、どんなことを感じるでしょうか。「なぜ言っていることがわからないのか!」と腹が立つかもしれません。「努力が足りないんじゃないか…」と悲しい気持ちになるかもしれません。「教え方がわるいんじゃないか!」と考えるかもしれません。でも、少し見方を変えてみるとどうでしょう。「わからない」ことがわかるってすごいことです。わかるに向けてのスタートラインに立てたということです。そう考えると「わからない」ということは、宝物のような言葉です。「わからない」を出発に「なんでだろう?」「そうすればいいかな?」と学びが続きます。考えた結果、次の「わからない」にたどりつくことができます。その繰り返しの先に、学ぶ楽しさが待っています。

本当はわかっているのに「わかったつもり」でいることもあります。「わからない」ということを恥ずかしいと思ってついつい「わかったふり」をしてしまうこともあります。その瞬間、学びを止めてしまいます。成長へのチャンスを逃してしまうことにつながりかねません。

表題の「無知の知」は古代ギリシャの哲学者ソクラテスに由来する概念です。「自分が無知であることを自覚し認めることが、真の知識への第一歩である」という考え方です。

わからないことを「わからない」と堂々と言える教室の雰囲気醸成。「わからない」という言葉を聞いたときに、「わからないことによく気付いたね。すごいよ!」「よし!一緒に考えよう!」と寄り添って、子どもたちの学びに向かえる教職員。そんな学級、学校となれるようこれからも努力してまいります。

150周年記念にむけての各方面よりのご支援、ご協力誠にありがとうございます。10月12日の式典まで5月31日時点であと134日となりました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。